

【報告書（HP用）】

（仮称）富谷市民図書館整備地区別デザイン会議

平成30（2018）年10月

富谷市教育部生涯学習課図書館開館準備室

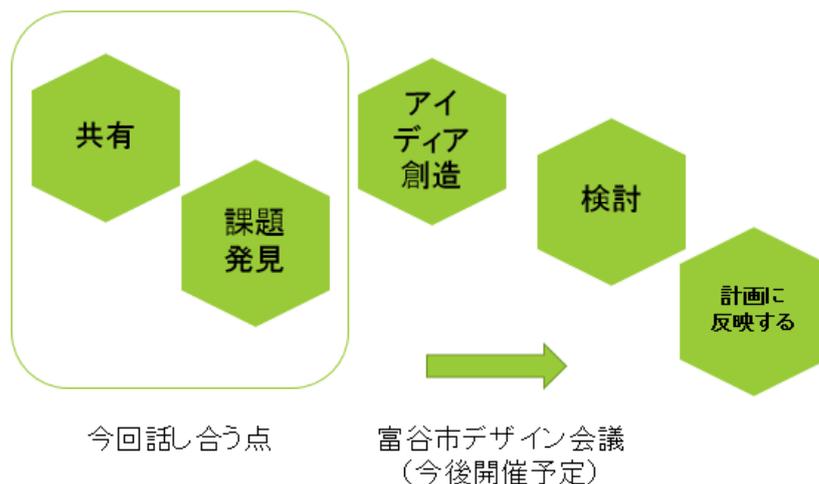
1. 基本情報

地区別デザイン会議実施の目的

基本構想に示した「市民協働」「市民間交流」を実現するため、基本構想を読みさらに理解を深めること、「富谷モデル」を共に考えることにより、基本計画の方向性の協議や情報の共有を行い、その出された意見を集約して、基本計画策定に反映させるため「地区別デザイン会議」を開催した。

1.1. 地区別デザイン会議の位置づけ

デザイン思考の5つのステップ



基本計画策定時には、今回の議論で出された意見の中から、多く支持された事柄・重要だと思われた事柄が重点項目として反映される予定です。

1.2. 議論した点

この地区別デザイン会議の中では、以下の2点について参加者と議論を行いました。

(1) 基本構想を読む

基本計画の前提となる基本構想について論点の整理、方向性の共有を図りました。

(2) 「富谷モデル」を考える

センター館と分館、学校や市内にある施設等とのネットワークを形成する「富谷モデル」での図書館運用のあり方を考えるため、以下の3点について議論しました。

- ・ 公民館図書室を分館にする方向性を考える
- ・ 設置されるセンター館について考える

- ・ 「富谷モデル」の図書館として、各分館・センター館・学校等とのネットワークのあり方を考える

1.3. 開催日時、場所、参加者人数

地区別デザイン会議では多くの市民が参加できるよう、富谷市にある全公民館を会場として、平日の夜と週末の昼、同じ内容のものを開催しました。

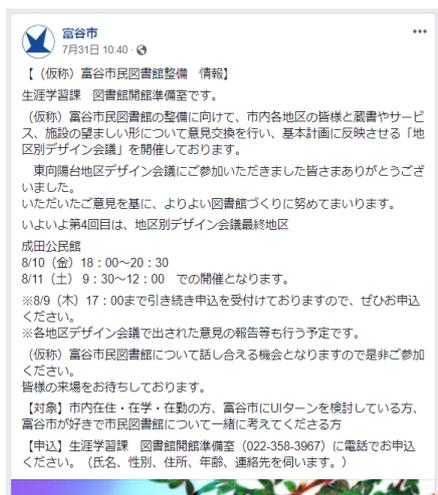
開催日	開催時間	開催場所	参加者人数
2018（平成30）年 7月13日（金）	18:30～20:30	あけの平公民館	7名
	18:30～20:30	日吉台公民館	7名
7月20日（金）	18:30～20:30	富谷中央公民館	7名
	18:30～20:30	富ヶ丘公民館	8名
7月21日（土）	10:00～12:00	富ヶ丘公民館	3名
7月27日（金）	18:30～20:30	東向陽台公民館	9名
7月28日（土）	10:00～12:00	東向陽台公民館	5名
8月10日（金）	18:00～20:30	成田公民館	13名
8月11日（土）	09:30～12:00	成田公民館	21名
			80名

※関係者・傍聴者・マスコミを除いた人数

1.4. 広報

地区別デザイン会議参加への呼びかけは「広報とみや」や市の関連ウェブサイト「(仮称)富谷市民図書館整備基本計画について」や富谷市の Facebook に告知を掲載しました。

また、地区別デザイン会議のポスターを作成し、会場となる各公民館、大学等に掲示しました。



左) 富谷市公式 Facebook

<https://www.facebook.com/tomiya.seikatu/posts/1085165918313112>

右) 『広報とみや』2018年7月号

<http://www.tomiya-city.miyagi.jp/uploaded/attachment/7219.pdf>



市役所の受付に貼られたポスター

1.5. メディア掲載

デザイン会議の様子が新聞記事等として掲載されました。

「<富谷・黒川ウイーク>新図書館づくり始動 計画案に市民の声生かす」

(河北新報 紙面 2018-8-26、河北新報 Online News 2018-08-26)

2. 議論された点 【多く意見が出された点は太字としています】

2.1. 基本構想を読む

2.1.1. 生涯学習

○利用者の情報リテラシーを高め、全世代が「調べる力」を持つ生涯学習の拠点をつくる

2.1.2. 資料

○蔵書冊数、コレクションの内容等、資料の収集方針を具体化する

○富谷市民図書館として、郷土資料の収集・充実や制作に重点を置く必要がある

2.1.3. 施設

●図書館としての機能の充実には、スペースの確保が必要である

- ・ **学習スペース**（衝立などプライバシーを確保できると尚良い）
- ・ 学びのスペース（議論等ができる空間）
- ・ **読書スペース**（静かな空間、少し賑やかな空間）
- ・ 収集資料の品質維持、迅速な資料提供のためには、**保存施設・バックヤードの充実が不可欠である**
- ・ **子どもが集まれるスペース**（読み聞かせ、寝転がる、床で読む、賑やか）
- ・ **くつろげる空間**

・長時間滞在できる空間（カフェ、飲食スペース、コミュニティ広場）

カフェはぜひ必要（富谷市の魅力を伝えるため、地産地消・地域の食材等を使うなど）

※ カフェは必要ないという意見もあった。（本の汚れ、開架スペースの減少につながるなど）

- ・ 駐車場

●専門性の高い司書・館長の配置、職員全体の人員拡充が必要である

- ・ 図書館開館準備室の開設はまずその第一歩

○子ども、高齢者、障害者、海外の方など全ての人が利用しやすい、バリアフリーの図書館を目指す

○利用者が居心地をよいと感じる家具の設置が必要だが、高価なものよりもメンテナンス面や衛生面・バリアフリー面・アレルギー面などに配慮したものが必要である

○開館時間の延長を望む

↓↑

コスト面、人員面の負担が大きく難しいのではないか。もし、延長するならば、常にではなくイベント時や曜日を決めての実施でもよい

○返却ポストの設置

○Wi-Fi、電源設備を整備する

●インターネット上に個人のマイページを持ち、予約手続き・貸出状況確認等を行えるようにする

○プライバシー保護、窓口業務負担軽減等の観点から IC タグ・自動貸出機を導入する

↓↑

○対人カウンターをなくすのではなく、利用者が自動貸出機・カウンターを選択できるようにする。また、ICT 利用が難しい方への配慮・サポートは必須である

2.1.4. 市民参加

○図書館との意見交換、図書館運営への市民参画などを、市民が気軽に行えるようにしてもらい、建てたあとも市民協働の下運営に携わっていきたい。

○司書のレファレンス対応強化のためには、貸出返却作業等へのボランティアさんの協力が必要である

2.2. 「富谷モデル」を考える

2.2.1. 分館について

【特色】

○公民館がある団地の歴史に関する資料、地区住民の年齢層に合わせた蔵書などを集めることで特色を出す

↓↑

- **地区毎に蔵書の特色を持たせるような単純化は難しい**
- ビジネス支援や子育て支援等、どの地域でも必要とされる資料については特定の館に置くのは避けてほしい
- 蔵書としての特色ではなく、静かな分館・子どもがワイワイできる分館のように空間での特色を持たせてはどうだろうか
- 蔵書ではなく、地域の情報発信・イベント等で特色を出すほうが現実的かつ魅力的である
- 「交通弱者のための図書館」を分館の役割とするならば、蔵書に特色を持たせ「人を動かす（公民館を巡る）」ことは矛盾しており、また交通弱者には難しい
- 他地区の利用を促進したいのであれば、蔵書の特色による違いを出すのではなく、施設のつくり・利用方法に共通性を持たせたほうがよい。図書室の場所を事務室すぐ隣の部屋に統一するなど、他地区の方が利用する際に戸惑わないような配慮が必要ではないか
- そもそも分館の特色以前に、富谷市民図書館としての特色・キャッチコピー・目玉はなにかを考えるべきである

【建築に関すること】

- **公民館の稼働率が高いため、リノベーションは現実的に難しいのではないか**
- **分館のリノベーションにより、センター館の規模が縮小されるのであれば、分館のリノベーションはするべきではない。センター館閉館後に検討してもよいのではないか**
- **公民館活動に支障は出ないようにしてほしい**
- **建物の構造、幼児室・学習室の利用状況等が各館異なるが、リノベーションが可能なものか**
- **駐車場の増設は困難である**

【機能】

- 地元の人（特に子ども、高齢者）が利用しやすい分館は必要である
- 市の面積に対し分館数が多く、人員・コスト・均一なサービス提供などの面から見ても検討が必要ではないか
- 公民館活動と共存し、活動を支える図書館という位置づけであるため、新たな図書館ス

ペースの確保が難しいのであれば、**分館の機能は「図書の貸出・返却の窓口」に集約していいのではないか**

- 読み聞かせサービスは分館でも行ってほしい
- 地域の情報を収集し、外に向けて発信する役割を担ってほしい
- 図書館同士をつなぐバスがあれば気軽に他館利用ができる

2.2.2. センター館について

【分館との関係】

●**センター館の図書館としての機能充実を何よりも優先したい。その上で分館のリノベーションの可能性を考えたい**

●**分館のバックアップ、情報提供、連携・協働の核となってほしい**

- ・選書会議等で分館の意向も踏まえながら、分館の本の選書をセンター館が一元的に行う
- ・分館の活動、スケジュールをセンター館が取りまとめ、可視化・調整ができるようにする

【建築に関すること】

●**増設ではなく新設がよい**

●**駐車場の問題もあるため、公民館敷地内が難しければ現在の第2駐車場に新設してはどうか**

- 公民館建物と図書館建物は切り離してほしい。続いていると公民館活動・図書館活動それぞれに支障がでるのではないか

【機能】

●**センター館本体または蔵書に富谷らしい特色を出してほしい**

- センター館予定地周辺の渋滞等の交通問題については市全体の問題として取り組むべきである
- 図書館の利用が少ない若者も行きたいと思えるようなセンター館を目指す
- コミュニティやボランティア活動をサポートする拠点
- 富谷市で市民活動をしている団体等を知ることができるような場所とする。また、市民活動への参加のきっかけを提供する拠点、活動している人と人をつなぐ拠点にする
- 興味・関心を持てる活動・運営・SNSを活用した情報発信を行う
- 郷土資料となる写真の収集・デジタル化等もセンター館で担ってほしい

2.2.3. 分館同士やセンター館、学校等とのネットワークについて

- 資料の返却場所を分館やセンター館だけではなくコンビニ等にも拡大（返却BOX）
- システムでつなぎ予約、貸出、返却が円滑に行われるよう ICT 活用を強化
- 分館・センター館・学校以外の機関とのネットワーク整備は、蔵書の充実・コミュニティ機能整備などの基礎ができた次の段階で行うべき
- 公共図書館と学校図書館のシステムを一本化して、運用を効率的に行えるようにするべき
- 各館をつなぐ図書便の本数を増やし、本の動きをスピーディにする
- 宮城県図書館との連携を強め、配送車を出すなど蔵書の利用が簡単にすばやく行えるようにする

3. 写真資料



あけの平公民館：7月13日（土）



日吉台公民館：7月13日（土）



富ヶ丘公民館：7月20日（金）



富谷中央公民館：7月20日（金）



東向陽台公民館：7月27日（金）



成田公民館：8月11日（土）

4. 市民協働の取組み

年月	事業名
H28.12 ～H29.1	「とみやのまちから考える「想い敬う」とみやワークショップ」 (全2回開催)
H29.1	富谷市の図書館を考えるシンポジウム
H29.8	アイデアキャンプ(全2回開催)
H29.10	先進地視察(市長他市民、事務局等)
H29.12	富谷市の図書館について語り合うシビックミーティング
H30.2	「(仮称)新富谷市図書館整備基本構想」(案)について語り合うアイデアキャンプ(全2回開催)
H30.7 ～H30.8	(仮称)富谷市民図書館整備基本計画地区別デザイン会議(全9回開催) (あけの平・日吉台・富谷中央・富ヶ丘・東向陽台・成田)

以上